

第6学年1組 道徳科学習指導案

場所 6年1組教室 指導者 山平 恵太

1 教材名 銀のしょく台 (B 相互理解, 寛容)

本学級の子どもは昨年度からクラス替えがなく、普段の生活ではお互いの性格や特性を理解してみんなで仲良く遊んだり、授業では友達の考えをよく聞いて考えを交流したりして過ごすことができる。一方、同じクラスメイトと過ごしているからか、これまで仲良くしていた友達の言動がきっかけでトラブルになり、互いに相手のことを非難し合う姿も見受けられる。これは相手のことを一面的に捉えてしまうことや、自分にも同様のことがあるかもしれないという寛容な心で接することができていないことが原因になっていると考える。

このような子どもたちが、ジャン・バルジャン（以下ジャン）を許したミリエル司教の広い心とはどのような心なのかについて話し合うことを通して、広い心をもつことが大切な理由に気づき、なりたい自分を寛容さとの関連から更新してほしいと願う。

そこで本実践では、ミリエル司教がジャンを許し、銀のしょく台を渡した理由を取り上げることで、ミリエル司教の広い心について多面的・多角的な捉えを促す。まず銀のしょく台を渡した「ミリエル司教」の立場から広い心について捉えていく。次に広い心の内実、効用、生活場面への戻しという3つの視点から立場を選び、広い心の具体を話し合う場を設定することで、なりたい自分を広い心との関わりから更新する学びを生みだしていく。

2 教材について

- (1) 本教材のねらいは、ミリエル司教がジャンを許し銀のしょく台を渡した理由を考えることを通して広い心とはどんな心なのかを考え、寛容な心情を育むことである。

この時期の子どもは自分のものの見方・考え方についての認識が深まることから、相手と自分との違いを意識することがある。また、自分と考えや意見が近いもの同士が仲がよい人、自分と考えや意見が違う人はそうではない人と認識し、遠ざけるといった行動が出てくる。これは、考えや意見が近い場合は自分の考えや意見を変える必要がない反面、考えや意見が違う場合は自分の考え方を広げて受け止めなければいけないからである。だとすれば、考え方が違う相手と分かり合うためには、自分も同様に過ちを犯してしまう弱さがあるという人間理解と、他者のことを分かろうする他者理解、すなわち自他理解が欠かせない。そこで、罪を犯した人間を受け入れ、嘘を許し、さらに銀のしょく台を渡したミリエル司教とジャンの姿から自他理解を促し、寛容さについて考えさせていきたい。

本実践では、事前読み後に書いた感想を取り上げ、事前アンケートの「許せない」という人が多かった状況と、ジャンを許したミリエル司教の姿とを比較することで価値との接点を見いだしていく。その上で、ミリエル司教がジャンを許した理由について話し合うことで、ミリエル司教の立場から他者理解、ジャンの立場から人間理解を促し、広い心の内実に迫っていきたい。そこで、5年生で学習した「ブランコ乗りとピエロ」(B 相互理解、寛容)の振り返りを紹介し想起させることで、本教材との違いに着目させていく。さらになりたい自分を見つめ直す振り返り一歩前の手立てとして次の視点で立ち止まりを促していく。ミリエル司教（広い心の内実）ジャン（効用）自分（生活場面）という3つの視点から選択し、振り返りに記述できそうなことを話し合わせることで他者、教材、価値を媒介として自己を見つめ直すことができるようにする。その際、導入で紹介した振り返りと比べてどのように変容したのかと問いかけることで、なりたい自

分を寛容さとの関連から更新してほしいと願う。

- (2) 本実践に関する子どもの実態は次の通りである。(調査人数35人)

「大切なものを誰かに奪われたら許せますか？」と尋ねた際、許すは1人、許せないは24人、場合によるは10人だった。許す理由は「その人にとって必要なものであれば仕方ない」等、許さない理由は「精神が安定しなくなるから」等、場合による理由は「葬儀費用等であれば仕方ないから」等、状況や場合によって対応が変わると考える子どもが多かった。

また、「許された経験がありますか」と尋ねると、32人があると答え、3人がないと答えた。許された理由は「お母さんに内緒で友達と遊んでバレた。でも許してくれた」「間違っ**て**ぶつかったりしてしまった時や、持ってこなければいけないものを忘れてしまった時にクラスの人や先生に許してもらった」逆に許されなかったこととしては「友達とのトラブル」と書いていた。今回のアンケートの結果から、許すことはできない、場合によると考える子どもの多さから、ミリエル司教のように許すことができるのはなぜか、と疑問を抱くのではないかと考える。また、許された経験のある子どもの多さから、ジャンに共感し、過ちを犯してしまう人間の弱さがあることは理解することができると思う。

3 単元の目標

- (1) ミリエル司教がジャンを許し、銀のしょく台を渡した理由について理解し、広い心を「ブランコ乗りとピエロ」等の他教材と比較し話し合うことができる。
- (2) ミリエル司教、ジャン、自分のそれぞれの立場から、なりたい自分を寛容との関連で考えることができる。
- (3) 「ブランコ乗りとピエロ」の振り返りと銀のしょく台の振り返りを比較してなりたい自分を見直すことで、なりたい自分を更新しようとしている。

4 指導計画（1時間取り扱い モジュール、道徳1時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
事前	1 銀のしょく台を読み、人物シートを基に、感想を書く。	○「銀のしょく台」とレ・ミゼラブルとの関連について知らせ、興味をもつことができるようにする。 ○ 教材を読み聞かせ、ジャンのこれまでの生い立ちについて知らせた上で人物シートを配付し、感じたことや考えたことを書くように促す。【モジュール】	【知】「銀のしょく台」について興味を持ち、人物シートを基に登場人物の関係を把握し、自分が感じたことや考えたことを感想に書くことができる。 (発言・ノート)
1	2 ミリエル司教がジャンを許し、銀のしょく台を渡した理由について話し合い、その理由を基になりたい自分について考える。	○ 課題設定後、「ブランコ乗りとピエロ」の振り返りを紹介し、同じ内容項目との関連を想起できるようにした上で、ミリエル司教がジャンを許し銀のしょく台を渡した理由を話し合うことができるようにする。 ○ 「ミリエル司教」「ジャン」「自分」という3つの視点から振り返りにつながりそうな視点について選択し、話し合うことで、広い心の内実について多面的・多角的に捉えることができるようにする。(本時1/1)【道徳】	【思】自分と違う視点で話し合った他者の話を聞き、自分の考えを多面的・多角的に捉え直すことができる。(発言・ノート) 【主】ミリエル司教の広い心から、なりたい自分を更新しようとしている。(発言・ノート)

5 本時の学習

(1) 目標

ミリエル司教がジャンを許し、銀のしょく台を渡した理由について話し合うことを通して、広い心の内実に気づき、寛容な心情を育む。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
8	1 感想を共有し、事前アンケートの結果とミリエル司教との違いを考える。	○ やっぱりミリエル司教がジャンに対して家に泊めたり、ご飯をご馳走したりしただけじゃなくてジャンを許し銀のしょく台を渡すことができるのはすごいな。 ○ でも事前アンケート結果ではどちらかというと許せないっていう人が多かったよね。 ○ ミリエル司教がジャンを許したというだけでもすごいのにどうして銀のしょく台まで渡したのかな？
12	2 ミリエル司教がジャンを許し、銀のしょく台を渡した理由について話し合う。	○ 自分の大切なものを渡すってとっても勇気がいると思うか、私はそこまでできないけど、渡したってことはそうしてもいいと思ったからじゃない。 ○ ジャンがどんな人物なのかを考えたり、自分が持っているものについても自分のためだけじゃなくて、困っている人のために使ったりしたいって思ったんじゃない。 ○ なるほど。人に優しくされる経験がジャンを変えるって信じる気持ちもあったのかもしれない。 ○ でもこれはジャンにとってよかったのかな。また同じことを繰り返すことにならないのかな。
15	3 「ミリエル司教」「ジャン」「自分」の中から振り返りにつながる視点を選び、話し合う。	○ 「ミリエル司教」の視点から見ると、どんな罪人で合っても、これからも悪さをすると決めつけなくて、信じていると思う。僕のなりたい自分はおおらかだから、ミリエル司教のように広い心をもった人になれたらいいな。 ○ 「ジャン」からすると、そもそものジャンは悪い人間ではなかったはずだから、ミリエル司教との出会いはこれからのジャンにつながっていくと思う。広い心で接すると相手をも変えることができる、そんな力があるのかもしれない。 ○ 「自分」はミリエル司教のように許すことはなかなかできないと思う。でも、なりたい自分は広い心をもつ自分だから、難しいけど、まずはクラスの中で些細なことであれば許すことや、広い心で接することができるようになりたいと思った。
10	4 振り返りを書く。	○ まだ許すということについては納得できるところまではいってないけど、広い心をもちたいという思いは高まりました。これまで自分のことばかり考えてきていたけど、広い心を取り入れた自分になりたいと思いました。



本時では、ミリエル司教が銀のしょく台を渡した理由について話し合うことで「広い心」の内実に気付かせていきます。その上で、振り返り一歩前に「ミリエル司教」「ジャン」「自分」の3つの視点からなりたい自分につなげられそうなものを言語化させることで、なりたい自分を更新する姿を生みだします。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 「銀のしょく台」を事前読みさせた上で、ミリエル司教とジャンの言動について時系列でまとめておき、ジャンの過去をまとめた人物シートを事前に配付しておくことで、読むことが苦手な子どもも内容を理解し議論に参加できるようにしておく。
- 事前読み後の感想でミリエル司教の広い心に着目しているものと、ミリエル司教の言動に違和感を覚えているものを取り上げ、自分の感想と比較しながら聞くよう促し、感じたことを共有する。さらに「そこまでできない」「ミリエル司教はすごい」に近い子どもの考えを見取り、事前アンケートの結果と比較した上で話し合いたいという思いを高め、以下の課題を設定する。

【教材・教具】

- 大型テレビ
- 人物シート
- 挿絵

ミリエル司教はなぜジャンを許し、銀のしょく台を渡したのだろう。

- 課題に対して現時点での考えをペアやグループで表出させることで、自分が分かっている事や分からない事に気付くことができるようにしていく。話し合いの様相から、すぐに結論が出ている姿や話し合いが停滞している姿が見られる場合、事前アンケートの「許せない」という人が多かった状況と、ジャンを許したミリエル司教の姿とを比較するよう促したり、人物シートのジャンの過去に着目するよう促したりするなどの教師の出を行う。
- 5年生の教材「ブランコ乗りとピエロ」（B 相互理解、寛容）という本時と同じ内容項目で学習した教材の振り返りを読み直すよう促すことで、ピエロがサムを許し認めた理由と、ミリエル司教がジャンを許し銀のしょく台を渡した理由の違いや共通点について考えることができるようにしていく。
- 「ミリエル司教自身がジャンの立場だったらと考えて…」 「ミリエル司教がジャンのことを理解しようとした」等、価値と関連した話し合いをしている姿を見取り板書しておくことで、一面的な見方で議論をしていたグループには、板書を見るよう促し、多面的・多角的な捉えにつながるようにしていく。
- ミリエル司教がジャンにしょく台を渡した理由を「優しいから」や「思いやりがあるから」等、ミリエル司教の性格だからと安易に結論付けようとしている場合は、ミリエル司教の寛容さと今の自分の寛容さを比較させる。そうすることで、ミリエル司教の寛容さの内実に気付く（他者理解）、そうはいつでも簡単に寛容になれない弱さがあることを自覚させ（人間理解）、自他理解を通した寛容さについて多面的、多角的な捉えを促す。
- 振り返り一歩前の手立てとして誰の視点で振り返るのかを選択させる。「ミリエル司教」（広い心の内実）「ジャン」（効用）「自分」（生活場面）の3つ視点を示し、なりたい自分につなげて振り返ることができそうなものを言語化させることで、広い心の内実をなりたい自分につなげて振り返ることができるようにする。

【評価】

「広い心」の内実を行動や心構えから捉え直し、なりたい自分を更新することができる。
（ノート・発言）